

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月17日現在

機関番号：16301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K17423

研究課題名（和文）地方都市における工業高校卒業生の学校経験と初期キャリア形成の関連

研究課題名（英文）Relation between School Experience and Early Career Formation of Technical High School Graduates in a Provincial City

研究代表者

尾川 満宏（OGAWA, MITSUHIRO）

愛媛大学・教育学部・准教授

研究者番号：30723366

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、地方の工業高校卒業生に対するインタビュー調査から、高校工業教育と初期キャリア形成の関連を明らかにした。職業的な知識・スキルの部分では、工業高校での学習経験と職業経験の間には接続性が実感されることは少なく、むしろ学校や教師が接続を強調することに対して、生徒や卒業生はそれへの疑念を抱くようになっていた。さらに、地方の高卒就職者らによる職業生活や家庭生活のリアリティを検討し、地域労働市場の状況や地元で流通する情報やライフスタイルを彼ら自身が解釈しながら地域的な（ローカルな）キャリア形成の過程を経験していることを明らかにした。これらの知見から高校職業教育をめぐる示唆と課題を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の理論的な成果として、1)教育と職業の「接続」を強調することで逆に「断絶」を意識させる余地を生む「職業教育のパラドックス」と、2)地域的なキャリア形成の特質を抽出するための「ローカリティ」概念を明らかにした。実践的な成果として、卒業生らは、初期キャリア形成の過程において、職業教育における生徒指導的な指導の意義や有効性を認識しており、教育実践上の指針として重要な論点であることを示唆した。

研究成果の概要（英文）：In this study, the relationship between vocational education and the graduates' early career development was clarified through the interview research for the graduates from a provincial technical high school. In the area of occupational knowledge and skills, there was little perceived connectivity between what they learned at the high school and work experiences, and rather, students and graduates began to question the emphasis schools and teachers place on connectivity. In addition, through the analyses of reality of work and family lives by the research participants, it was found that they experienced the process of regional (local) life career formation by interpreting the situation of the local labor market and the information and lifestyle circulating in the local area. From these knowledge, suggestion and issues on the high school vocational education were indicated.

研究分野：教育社会学

キーワード：学校から職業への移行 進路指導・キャリア教育 職業教育 工業高校 地方都市 キャリア形成

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

若者のキャリア問題が社会的な関心を集めた 2000 年代以降、教育学や教育社会学では「学校から職業への移行」に関する研究が推進されてきた。若年労働市場の変容など社会構造的な観点からの研究や、不安定な若者層の労働と生活の実態に迫る調査研究が蓄積された結果、現在では教育システムと労働システム間の関係再編が学術的・政策的な論点となっている。これにかかわる有力な議論に「教育の職業的意義」回復論がある（本田由紀『教育の職業的意義』筑摩書房、2009 年）。いわく、高校段階で生徒個人が何らかの職業的な「専門性」を獲得し、それを拠り所として進路形成に向かえるよう職業教育を拡充し、専門高校を増やすべきだという。この議論の特徴は、学校での学習と卒業後のキャリア形成との連続性を強く前提している点である。

しかし、この前提には十分な根拠があるとはいえない。高校職業教育と、卒業生（とりわけ就職者）によるキャリア形成との関連についての検証が、十分に蓄積されていないからである。職業選抜の実態として、たしかに専門高校での学習や生活は就職とリンクしていることが実証的に明らかにされているし（荻谷剛彦『学校・職業・選抜の社会学』東京大学出版会、1991 年など）、学校でのパフォーマンスは給与や昇進と当然関連している。しかしながら、具体的な学校経験が卒業後の職業生活にどのように結びついているのか、たとえば、どのような学習内容がどのような仕事に役立ったのかといった質的な関連は十分に検証されていない。つまり、職業教育の拡充を主張するための決定的な知見が不足している状況といえる。

さらに、職業教育に対する卒業生自身の評価を理解するうえで重要なのは、それが「地域」という文脈のなかで形成される側面である。学校経験に対する卒業生自身の評価も、地域のなかで形成されるローカルな認識といえよう。ノンエリート若者に着目した最近のキャリア研究は、大都市の状況を無自覚に前提視し、大都市の進路多様校や専門高校が抱える問題を過剰に一般化する傾向にあり、高卒就職者の多様性を把握するうえでも、地域的な特質とかれらのキャリア形成との関連に焦点を当てる必要がある。

こうした問題意識のもと、本研究では、工業高校を中心とした専門高校卒業生による初期キャリア形成の実態と、個々人の職業経験に応じた高校職業教育への評価の実態を明らかにする必要があると考え、以下の研究目的および研究課題を設定した。

2. 研究の目的

本研究では、先行研究の検討と、ある地方都市の工業高校卒業生に対するインタビュー調査から、かれらの学校経験と初期キャリア形成との関連を明らかにし、高校職業教育の機能を検証することを目的とした。具体的には下記の研究課題に取り組むことで、専門高校・職業教育の現代的な課題と可能性を明らかにしようとした。

第 1 に、地方都市における工業高校卒業生の初期キャリアパターンを詳細に把握し、類型化する。

第 2 に、学習経験を中心に、高校生活と卒業後の職業生活の関連性（接続 / 断絶）を検討する。

第 3 に、以上の作業をふまえて、「地域」における工業高校の機能を、卒業生自身の認識や評価から検証する。

3. 研究の方法

まず先行研究の検討として、今日の高校職業教育と深く関連するキャリア教育について、子ども・若者と労働や職業生活との関係再編という視点から、社会史的な考察を行った。この作業を通じて、現代の高卒就職者が置かれたキャリア形成環境の特質を「大人」像の再編という新しい視点から明らかにし、今日の若者のキャリア支援に必要な視座を得ることを目指した。

そのうえで、以前申請者が工業高校フィールドワークを行った地方都市を中心とした調査地域として、工業高校卒業生（卒業後 4～5 年目、22～23 歳）を中心としながら、その他高卒就職者を輩出する専門高校卒業生などにも協力を得て、インタビュー調査を実施した。調査結果をもとに工業高校卒業生のキャリアパターンの類型化を試みるとともに、高校生活と初期キャリア形成の関連性に関する語りに焦点を当てた分析を行った。

調査の結果、中心的な分析対象となった調査協力者のキャリアパターンは、表 1 のとおりである。

4. 研究成果

若者のキャリア形成支援をめぐる従来の研究動向と政策動向について、2010 年前後から新しいキャリア教育論（権利論的キャリア教育論）が活性化していることに着目して、学校から職業への移行（トランジション）問題を検討した。その結果、現在の若者のキャリア形成をめぐる社会的なまなざしが、職業的・社会的に自立した個人像を若者に過剰に要請している側面を明らかにした。新しいキャリア教育論はそうした要請を相対化する重要な契機として重要であるが、同様の論理をはらみもつ点に限界もある。これらをふまえたうえで、若者のキャリア形成をとらえる視点として市場や制度、組織への依存なしでは成立しえない「大人」像を本研究では仮説的に提示した。換言すれば、そうした「大人」としての生き方・働き方を展望し実現することを、キャリア形成のプロセスとしてとらえる認識の可能性を示唆した。

行われていた。それは文化人類学のアパデュライが示すような、ローカルな目的と論理に照らして合理的な(『さまよえる近代』平凡社、2004年)、ライフキャリアの形成と云うものだった。

以上より、ある地方の工業高校卒業者を中心とした高卒就職者の経験と認識に着目した本研究では、地域における高校職業教育の意義を、職務内容の理解や高度化への対応というより職場や地域労働市場での働き方・生き方を学ぶ点に見出した。また、彼らの卒業後のキャリア形成は、職務内容などによるワークキャリアよりも、「地元」に流通しているライフスタイルなどを参照しながら形成するライフキャリアが重要である点が示唆された。

本研究では、高卒者のいわば主観的なレベルでの「教育の職業的意義」に焦点化し、また「地元」への残留層を主な協力者として調査を実施した。そうした限定によって上記諸点の知見が得られたが、高校職業教育の全体像を論じるうえでは小さくない限界がある。今後はそれらの課題を克服するとともに、より個別的なトピックに関するインテンシブな調査研究を進める必要がある。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

1. 尾川満宏「記述されにくい働き方・生き方を記述する：若者の仕事と生活をめぐるインタビュー、エスノグラフィー」『日本労働研究雑誌』705、pp.69-74、2019年
2. 尾川満宏「若者の移行経験にみるローカリティ：仕事、家族、地元のリアリティをめぐる社会=空間的アプローチの可能性」『教育社会学研究』102、pp.57-77、2018年
3. 尾川満宏「児童労働の排除から権利論的キャリア教育論へ：人権・権利の視点でひもとくトランジション問題」『子ども社会研究』23、pp.69-85、2017年
4. 尾川満宏「部活動経験によるキャリア意識の分化：工業高校生を事例にした基礎的分析」『愛媛大学教育学部紀要』63、pp.73-82、2016年

[学会発表](計7件)

1. MITSUHIRO OGAWA, ““ Industrial Women ”in Japan ”, 17th Hawaii International Conference on Education 2019年1月6日
2. 尾川満宏「工業系女子の研究：政策・業界動向と職業教育・職業選択をめぐる女性の経験」日本子ども社会学会研究集会 2018年12月2日
3. 尾川満宏「卒業者が語る高校職業教育：初期キャリア形成にみる学校 職業の接続/断絶」日本教育社会学会第70回大会 2018年9月4日
4. MITSUHIRO OGAWA, “ Exploring perceived relevance of vocational education to work: Focusing on narratives about “ teachers ” by technical high school graduates in Japan ”, 2018 International Conference 'Teacher Education and Educational Research in the Mediterranean ’ 2018年6月8日
5. MITSUHIRO OGAWA, “ Reconsidering Vocational Education: Focusing on the Context of Secondary Education in Japan ”, Taiwan Association for Sociology of Education 23rd Annual Conference 2017 2017年5月5日
6. 尾川満宏「高校職業教育の経験と初期キャリア形成の関連」中国四国教育学会第68回大会 2016年11月6日
7. 尾川満宏「労働をめぐる子どもの人権論・権利論の変容」日本子ども社会学会第23回大会 2016年6月4日